

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「花盛り」などの「さかり」もまた、「さか」+「り」で、「さく」「さいわい」などと関連する、最も勢いのよい状態をいう日本語です。「さかり」とは、まさに花が咲きあふれているピークの状態だと、古代の日本人は考えました。「栄える」の「さか」も同じです。

また、海や湖の中に突き出た、半島より小さな陸地のことを「岬」とよびますが、この「さき」も同じです。突出した状態の陸地だから、「さき」という。単語の頭につく「み」は、「おみくじ」などの「み」と同じで、一種の美称。古代人は、突出したものを尊ぶ気持ちをもっていたのでした。

お酒の「さけ」もこの仲間。お酒を飲むと、気持ちが高揚するでしょう。そこにまた幸福感も宿る。生命の充実みみたいなものを感じますね。(A) 酒を、「さけ」とよんだのでしよう。

酒を意味する語には、もっと古いことば「き」があります。「おみき(御神酒)」「しろき(白酒)」「くろき(黒酒)」などという「き」ですが、これは縄文語にまで遡るのではないでしようか。

今日、いわゆるやまとことばと考えられているものは、だいたい弥生語に発すると思われれます。つまり、紀元前三世紀頃から後のことばです。(B) それ以前にも、日本列島には縄文人が住んでいました。彼らのことばが縄文語です。これが、今日どのようなように伝えられているかはわかりませんが、やまとことばの根源となることばに残っているのでは

ないかと思われれます。

このように、すでに「き」というよび名をもっていた酒に、花が咲くのと同じ「さけ」という名を与えた古代人の感性は、なかなか酒の本質をいいあてていると思いませんか。

さて、「岬」「酒」「咲く」。この三つは、物体としてはまったく別のものです。私たちも別々のことばだと思つて使つています。現代の日本語は、それぞれの事物によつて、よぶことばを替えますから、①これをモノ分類ということができません。これは明解ではあるのですが、本質的な意味がどこかに置き忘れられている。「咲く」と「盛り」には少しも共通性を感じることがないでしょう。

しかし、語の本来の意味まで遡ると、ピークやトップの状態であることにおいて、じつは、すべて等しいということがわかります。

このように、機能・作用・働きによつてことばを与えるのが、本来の日本語の性質です。具体的な実感、具体的な認識というものが、ことばを生み出しているのです。

また、②「咲く」「酒」「岬」が根っこは同じだと気づかない理由のひとつに、現代人が日本語を音やひらがなではなく、漢字で理解するのがあたり前になっているという現実があります。

中国で生まれた漢字は、多く、字それぞれが意味をもっている、いわゆる意字です。しかし、文字のない日本に漢字が入ってきて、古代人は日本語の音に、どんな漢字をあてるようになった。そのおかげでひらがなやカタカナが生まれ、私たちの祖先は記録をすることができるようになったのです。その一方、時がたつにつれて日本語の意味が漢字の意味にとって代わられていくものも出てきました。

(C)、三重県の中西部に「名張^{なばり}」という地名があります。現在は名張市となつていますが、大和^{やまと}高原や室生^{むろう}火山群に囲まれた盆地^{ぼんち}で、古くから陸路^{りくろ}の要衝^{ようしゅう}として知られた宿場^{しゆくばう}町でした。日本語で「なばる」^{*}いえば、隠^{かく}れるという意味です。山の中に隠れたよ^{*}うな、奥^{おく}深いところだったから「なばり」と名付けられた。本来なら「隠」と書いて「なばり」とよませるのが正しいのです。それを「なばり」という発音にわかりやすく「名張」という字をあてたため、本来の意味が忘れられ、まるで名前が何かを引^{*}張^はっているみたいな地名になつてしまつたのです。

これも、柳田^{やなぎた}国男^{こくお}のいう「どんな字病」の一例です。③日本語には同音異義語が多く、説明をする時などは、漢字をあてないとわかりにくい。ところが、漢字はそれ自体に明確な意味があるため、あて字として使用されると本来の意味から離^{はな}れてしまいます。

(D)

(中西進『ひらがなでよめばわかる日本語』新潮文庫)

《語注》

- * 1 要衝・・・重要な地点。重要な場所。
- * 2 宿場町・・・江戸時代に、大きな街道沿いに来た商業集落。宿屋や食べ物屋、みやげ物屋などが立ち並んだ。
- * 3 柳田国男・・・日本の昔話や風習についての研究をした学者。

問一 空らん（ A ） く （ C ） にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の記号からそれぞれ一つ選びなさい。

- ア だから イ たとえば ウ つまり
エ そして オ しかし

問二 ぼう線部① 「これ」の指す内容はどのようなことですか。文中の語句を用いて二十文字以上三十五文字以内で答えなさい。

問三 ぼう線部② 「『咲く』『酒』『岬』が根っこは同じだ」とありますが、このことについて以下の ≪I≫ ≪II≫ の問いに答えなさい。

≪I≫ 「根っこ」とありますが、これを具体的に言いかえた言葉を、ここより前の文中から六字でぬき出しなさい。

≪II≫ 「根っこは同じだ」とありますが、「咲く」「酒」「岬」に共通する「根っこ」とは何ですか。ここより前の文中から十五字でぬき出しなさい。

問四

ぼう線部③「日本語には同音異義語が多く」とありますが、筆者はその原因の一つをどのように考えていますか。その説明として最もふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア もともとの日本語である「やまとことば」は、縄文時代以前は文字を持っていなかったから。

イ もともとの日本語である「やまとことば」は、さまざまな意味の違いを表現するには向かないことばだったから。

ウ もともとの日本語である「やまとことば」は、意味の違う事物であっても、できるだけ共通の音で表そうとすることばだったから。

エ もともとの日本語である「やまとことば」は、具体的な実感や具体的な認識によつてことばを生み出しているから。

問五

空らん（ D ）にはこの文章のまとめとなる一文が入ります。その一文として最もふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 日本語のことばのもともとの意味を考えるには、ひとつひとつの漢字の意味をきちんと理解する必要があるということがわかります。

イ 漢字は文字そのもので意味を表すことができる大変便利なものですが、日本語のもともとの意味を解らなくしてしまう点でとても不便な文字だといえます。

ウ 漢字から日本語の意味を考えることをやめて、ひらがなでじっくり考えるようにしたいものです。

エ 古代の日本人が漢字を受け入れたことで様々なことを表現できるようになったのですから、そのことによって日本語のもともとも意味が解りづらくなってしまうのは仕方のないことだといえます。

問六 右の文章について、先生と生徒（太郎）で話し合いました。その会話文の（ ）にあてはまることばを答え方に注意して答えなさい。（答え方 ① 漢字二字、

② 漢字三字、③ 漢字と送りかなで二字、④ 漢字と送りかなで三字）

太郎 「先生、文章中の『名張』の例と同じような例が他にもありますか。」

先生 「実はたくさんあるんだ。その一つとして都道府県の名前で考えてみよう。」

太郎 「それはおもしろそうですね。」

先生 「ところで（ ① ）時代に都が置かれた『平城京』は知っているよね。現在の何県にあるかな。」

太郎 「はい、知っています。（ ① ）県です。」

先生 「この県名と『平』という字が関係があるんだよ。太郎君、でこぼこの荒れた土地を平らにすることを何というかな。」

太郎 「えーっとー。（ ② ）ですか…。あつ！（ ① ）県と音が同じですね！」

先生 「さすが太郎君！ つまり『平城京』の『平城』は『平らかな土地』という意味なんだ。それを漢字の音を借りて（ ① ）と表したんだ。ところで太郎君、先生に勉強を教わることを何というかな。」

太郎 「（ ③ ）ですね。」

先生 「では、転校生が新しい学校の生活になじむことを『なじむ』以外に何というかな。」

太郎 「『新しい学校生活に（④）』ですね。」

先生 「（①）も（②）も（③）も（④）も元々は、『でこぼこしていたり、乱れていたり、訳が分からないものを整える』という点で同じ意味なんだ。」

太郎 「先生、日本語の語源についてもっと知りたくなりました。」

先生 「では、自由研究で取り組んでみるのもいいかもしれないですね。」

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公の佐々木有里は、毎年夏休みには、母の実家である新潟県の祖母の家に一週間泊りに行く。そこには一歳年下のいとこの千絵がいるが、千絵は東京暮らしの有里のことがうらやましくて仕方がなく、つい有里に対して意地悪をしてしまう。

ある日二人はけんかをしてしまう。有里は千絵に、共働きの両親に心配をかけたくないために、日々色々なことをがまんしていること、専業主婦の祖母と母（光子）のもとで、何不自由なく暮らす千絵のことがうらやましくてならないことを伝える。

東京に帰る日。

客間で荷物の整理をしていると、光子おばさんがやってきていった。

「はい、有里ちゃんにプレゼント」

おばさんは今年もまた、私のために（A）あみぐるみを作ってくれていたのだ。今年はきりりんのお人形。

「おばさん、ありがとう」

私は今年もちやんと、①うれしそうにそれをうけとった。お母さんは私が「いらないうつていうんじゃないかって、心配そうな顔をしていたけれど、もちろんそんなことはしなかった。

「お母さん」

だけど、そこに千絵ちゃんがあらわれた。

「そんなの有里ちゃんにあげないで」

千絵ちゃんは（ B ）した顔で私に近づくと、うけとったばかりのきりんの人形をとりあげた。

「有里ちゃん、中二だよ？　こんなほしがるわけないでしょ？」

そうおばさんに文句をいう千絵ちゃんを、②私はポカンと見上げるばかりだった。しかも、千絵ちゃんの耳たぶには、私があげた③ハートのイヤリングがゆれている。

「なんでえ。今年のがんは自信作なんだからもなあ」

おばさんが残念そうに、つぶやく。

「だからって、中二にもなって、お人形もらってうれしいわけないでしょ？　今年は私が用意したから」

私はそのイヤリングにくぎづけだった。だって、今まであげたおみやげを千絵ちゃん一度だってよろこんでくれなかった。つかってるところなんて、一度も見たことがなかった。イヤリングだって、いらないうってベッドに放り投げていたのに……。

「はい、これ、このイヤリングのお返し」

それなのに、今、千絵ちゃんの耳もとでゆれているのは、たしかに私があげたものだ。

「これっ！」

（ C ）気づくと、千絵ちゃんがムスツとした顔で、紙袋をさしだしている。

「はっ、はい……」

おしつけられるように、紙袋をわたされて、しばしばうぜんとする。

「石鹸だから」

千絵ちゃんが、おこったような口調のままつづける。

「温泉の成分が入ってて、肌はだがすべすべになるやつだから」

私は紙袋の中身を取りだした。白くて丸い石鹼が三個入っている。一つずつ、ちゃんと透明とうめいなセロファンでかわいくラッピングされている。

「肌はだ荒れとかに効くみたいだから」

「……ありがとう」

お礼をいってはみたものの、私はまだなにが起こったのかよく把握はあくできなかった。

だって、今まで千絵ちゃんからプレゼントをもらったことなんて、一度もないのだ。おみやげのお返しなんて、一度ももらったことがないのだ。

「じゃあ」

千絵ちゃんが、（D）部屋をでていってしまおう。

「千絵ちゃん！」

私はあわてて立ち上がると、あとを追った。

「ねえ、待って！」

階段の下のところ、千絵ちゃんが立ち止まる。

「石鹼、ありがとね」

「ん」

だけど、ふり向いてくれない。

「イヤリングも、つけてくれてありがとう」

「ん」

「来年も、また遊びにきていい？」

思わずそんな言葉がとび出した。

「来年もまた、私、きてもいいかな」

千絵ちゃんは返事をしてくれなかった。だけど、立ち去ってしまうこともなくて、私はその場で返事を待った。(E) 待った。

「さびしいなら……」

千絵ちゃんがようやく ≪ X ≫ を開いた。

「さびしいなら、今度は私が遊びにいつてあげてもいいから」

私に背中を向けたままだったけど、千絵ちゃんはいった。

「東京に……」

最後は、すごくか細い声だった。

「うん」

だけど、たしかにきこえた。

「きてきて」

東京に、つて千絵ちゃんはいった。

「ぜったいに、きて」

「ん」

千絵ちゃんは小さくうなずくと、ダダダダッとそのまま階段をかけあがって、自分の部屋にもどってしまった。

私はもう一度、紙袋の中を確認かくにんした。

肌の弱い私のために、千絵ちゃんがえらんでくれたプレゼントだ。私はうれしい気持ちでそれをぎゅっと抱だきしめた。千絵ちゃんと少しだけつながった気がした。はじめて、まだ帰りたくないなと思った。もうちよつと千絵ちゃんといっしょにいたいと思った。

(草野たき『反撃』はんげき「いつかふたりで」ポプラ社)

《語注》

*1 がん・・・新潟方言。「もの」。

問一 空らん (A) く (E) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを次の記号からそれぞれ一つ選びなさい。

- ア じつと イ せつせと ウ さつさと
エ むすつと オ ハツと

問二 空らん ≪ X ≫ には体の一部を表す漢字が入ります。それを答えなさい。

問三 ぼう線部①「うれしそうに」とありますが、有里がおばさんにこのような態度をとっているのはなぜですか。その理由を三十字以内で答えなさい。

問四 ぼう線部②「私はポカンと見上げるばかりだった」とありますが、これについて以

下の≪I≫≪II≫の問いに答えなさい。

≪I≫「ポカンと」と同じ意味を表すひらがな五字の言葉を、空らん（B）から空らん（D）までの間の文中からぬき出しなさい。

≪II≫有里はなぜこのような態度をとっているのでしょうか。その説明として最もふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 千絵の母親に有里の気持ちを察して代わりに伝え、しかも有里から人形を取り上げた千絵の行動に驚いたから。

イ 千絵の母親にいつもと同じように反抗的な態度を取る千絵の姿を初めて見てあつけにとられたから。

ウ 千絵の耳に自分があげたイヤリングがゆれていることを発見して動揺したから。

エ おばさんからもらって嬉しかった人形を突然千絵に取り上げられたので悲しかったから。

問五 ぼう線部③「ハートのイヤリング」とありますが、この「ハート」はこの物語の中

でどのようなことを表す役割をはたしていると考えられますか。その説明として最もふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 千絵の気に入りそうなものを選ぶ有里のセンスがいいこと。

イ 千絵が少しだけ大人になったこと。

- ウ 千絵がおしやれに目覚めたこと。
- エ 有里と千絵の心が通じ合ったこと。

問六 本文中に登場する千絵の性格を説明したものととして最もふさわしいものを次の記号

から一つ選びなさい。

- ア 周りの人々に合わせて、どうか大人ぶった振る舞いをしようとする性格。
- イ 有里への自分の気持ちを素直すなおに表現できない性格。
- ウ 自分の母親の行動がいちいち目に障るさわ、思春期にありがちな反抗的な性格。
- エ 周りの人々の気持ちを思いやって言葉を発することのできる性格。

【問題は次のページに続きます。】

